

子どもたちが元気に毎日登校してくれることが、私たちにとって本当に嬉しいことだと思います。教室(学校)での生活、家庭での生活の両方が安定しているからこそ、学校に行くことができるのだと思います。また、先生方の明るく協力し合っている雰囲気も子どもたちには伝わっていると思います。このアンケート結果がこれからも続くように取り組んでいきたいと思っています。

しっかり読書するが、毎年、児童、保護者ともに評価が低い。対応策として、児童の主な利用対象である学級文庫の年度途中の入れ替え、上部先生が那賀川図書館から借りてくださる本の利用を検討するとよいかもしれない。予算があれば「教科書に出てくる本」をもっと購入してほしいと思う。

各項目とも肯定的な回答が多かったが、保護者、児童のアンケートにおいて否定的な選択肢C・Dに一人でも回答があればそれを改善すべく全力で取り組まねばならないと思う。特に、児童の「学校が楽しくない」とか「勉強がわからない」などの項目は0にしなければならないと思う。簡単ではないが・・・。

保護者からのアンケートより、「先生は、お子様や保護者の相談に積極的に応じている」において否定的な意見がないのは、普段から担任の先生方が小さなことでも細かく報告や連絡を保護者の方々にしていたり、密に情報交換されていたりしている成果だと思う。

また、児童・保護者のアンケートの「楽しく学校生活を送っている」項目において、「そう思わない」が約3%程度あるのに対して、教職員アンケートでは0%であり、児童・保護者と教職員の間意識のずれがあると感じた。

また、「外で元気に遊んでいる」という項目では、教職員は90.9%「そう思う」と思っているのに対して、児童は74.3%、保護者は53.6%であった。学校では元気に遊んでいるのに対して、家ではそれほど遊べていない可能性があるため、家庭と協力した運動習慣の推進が課題であると感じた。

○保護者

- ・おおむね学校の取り組みに対して理解を示している。一方、児童に対しては、厳しめに評価している。わが子に対しての期待の表れだと感じる。
- ・児童の自分の考えを表現する力や、読書の実態に関して、保護者も課題を感じている。

- ・早寝早起きが比較的できていないということも気になる。

○児童

- ・どの項目も、「そう思う」という結果が出ており、意欲的に学校生活ができていることが分かる。
- ・家庭での読書習慣がない児童も、学校では読書している。読書の時間を設定していることが良かったと感じる。
- ・自分の考えを表現する力、読書習慣、早寝早起きについては、児童の中にもあまりできていないと感じている児童が、他の項目と比べて多いことが分かる。
- ・学習用具の準備が、十分でないと感じている児童が比較的多い。

○教職員

- ・ほとんどの教職員が、山口小学校が働きやすい職場だと感じている。
- ・児童は元気に活動出来ていると感じている。
- ・「基礎基本」「学習習慣」の定着に、一部課題を感じている。
- ・教職員も、自分の考えを表現する力や、読書の実態、学習用具の準備、早寝早起きに関して、課題を感じている。

「読書をしている。」「早寝・早起きができている。」の項目については、保護者・児童・教職員のどのアンケート結果からみても、他の項目に比べると課題が見られる。図書館サポーターの先生の協力もあり、本に対する興味・関心が以前よりも高まったように感じるが、今後読書する機会が増えるような取り組みを考える必要がある。早寝・早起きについては学校での指導と家庭への啓発や連携が必要となってくると思う。特に高学年や年上の兄弟がいると、生活リズムがくずれ、寝るのが遅くなりがちである。ただ、毎週火曜日に行っている、清潔検査の効果は高く、意識して、月曜日は早く寝るよう心がけ、火曜日の朝は、早起きできている。

だれもが楽しく学校へ登校できるよう、児童一人一人を大切に、いじめは絶対にいけない・許さないという教職員の姿勢は、今後も必要である。

アンケート結果から、保護者、児童、教職員に共通していることとして「読書があまりできていない」「表現力に課題がある」の2つが見える。この2つに関しては、学校教育の範囲内でどうにかできる課題であるので、わたしたち教職員が課題意識をもって取り組むべきことであり、取り組み方次第で変えられる部分でもあると思う。自分の校務分掌から考えると、読書については図書室の活用の仕方を工夫して提案する、図書室の蔵書の充実、家庭読書を宿題にするなどして家庭での読書時間を確保するなどがあげられる。表現力については学力向上の面からも本校の課題であるので、取り組み方を考え提案していきたい。